

科目	心理学 (B)	単位数	2
担当教員	多田 美香里		
履修対象	心理科学科1年春学期・健康科学科1年春学期・子ども1年春学期・発達1年春学期		
目的	心理学には綿密な実証研究によって得られたデータの蓄積で得られた知識もあれば、すぐれた倫理観と論理性に根ざした解釈による知識もある。その両者が混在した形で幅広い研究領域である心理学を成り立たせ、研究領域の幅を広げている。この授業ではすべての研究領域をカバーすることはできないが、基本的な知識を紹介することを通して、心理学の考え方の特徴をつかむことを目指す。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 (1)心理学の学術的専門書を読む。 (2)心理学の知識を自分の専門領域に応用する。 「思考・判断」 (1)学術的な心理学と科学的でない心理学の違いを区別する。 (2)心理学の代表的な研究・基礎用語・構成概念について説明できる。		
授業計画			
1	心理学とは、心理学の歴史:心理学が扱う対象、細分化された領域、心理思想、心理学が成立した状況、学派		
2	人間の行動特徴:動物と人間、生得性と獲得性、初期経験		
3	発達:発達観、言語発達、自我の形成、発達段階、加齢		
4	学習:古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習		
5	感覚:感覚の種類と範囲、感覚間統合		
6	知覚:注意、体制化、恒常性、空間と運動		
7	認知:記憶の過程、非言語的記憶、学習プログラム		
8	言語:音声、運用と理解、概念獲得		
9	思考:問題解決、推論、創造的思考		
10	動機づけ:内発的動機、社会的動機、動機の階層と獲得、原因帰属		
11	情緒:ノンバーバルコミュニケーション、情動表出、気分と感情		
12	人格:把握と形成、特性と類型、検査、知能		
13	社会:個人と集団、対人認知		
14	臨床:異常心理学、心理アセスメント、心理療法論		
15	再び、心理学とは:これまでのまとめとそれを踏まえた心理学の考え方の確認、関連する領域		
授業形態/具体的な内容	教員が用意した資料(レジュメ)に基づき、授業をすすめる。この授業の主眼は心理学の初歩的な知識の習得を目指すものであるため、用語や構成概念の理解を確認するため、小テスト等を実施する。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は指定しない			
参考書			
成績評価の基準・方法	受講態度、小テスト等の評価、定期試験の成績等から総合的に評価する。		
留意点			
準備学習	心理学の書籍または論文を読んでおくことを望みます。予備知識が得られ、授業内容が理解しやすくなります。「心理学」、「心理学概論」、「心理学通論」等の題目の本を選ぶと幅広く書かれていると思います。複数冊読むと、様々な角度から心理学を捉えることができます。また、受講後に再読するとさらに理解が深まります。		
備考		No.	GE712004

科目	心理学概論	単位数	2
担当教員	山田 富美雄		
履修対象	心理科学科1年秋学期・健康科学科1年秋学期		
目的	<p>はじめて心理科学を学ぶ1年次生の皆さん、心理科学の面白さを満喫して下さい。</p> <p>目にみえない「こころ」を科学するって、いったいなんでしょう。</p> <p>この講義を通じて、科学的証拠に基づいた心理学という基本的概念を学び、誤解されやすい心理学を正しく理解できればと思っています。</p>		
達成目標	<p>心理学の学問的性格を知りましょう。心理学の過去、歴史、現代、そして未来の心理科学を見据える力を鍛えましょう。そして心理学を、医療、臨床、社会、産業、教育、司法などの実践分野に活かす道筋を学びましょう。</p> <p>「ああ、心理科学とはこういうものか」という感覚を受講者全員が抱けるようになることを目標にしていきたいとおもいます。</p> <p>「関心・意欲・態度」</p> <p>(1)心理学への関心・意欲を高める。</p> <p>(2)心理学について学ぶ目標を定める。</p> <p>(3)心理学についての書物や関連情報を集める。</p> <p>「思考・判断」</p> <p>(1)科学的心理学の思考過程を身につけるよう努力する。</p> <p>(2)心理学の専門用語をつかって考える。</p> <p>(3)心理学上の理論や法則、数式などを覚えるためのノートを作る。</p> <p>「技能・表現」</p> <p>(1)自分の心の問題を心理学の方法論で理解するノートを作る。</p> <p>(2)心理学の用語をつかって世の中の出来事を考える。</p> <p>(3)友達に対して心理学の立場から意見を述べるができる。</p> <p>「知識・理解」</p> <p>(1)心理学とはなにかを多くの人に説明できるようにする。</p> <p>(2)心理学用語や理論、方法論を中学生や地域の人に説明できる。</p> <p>(3)最も興味のある心理学の領域を見つけ、さらに深く勉強する。</p>		
授業計画			
1	心理学とは何か(オリエンテーション)		
2	心のモデル:メカニクな心、ダイナミックな心、野獣の心、コンピュータの心		
3	心と身体:脳のはたらきと心の様		
4	心のはたらき1:学習～学ぶ・慣れる・習慣化する		
5	心のはたらき2:記憶～覚える、記憶する、想い出す、忘れる		
6	心のはたらき3:感覚～見る、聞く、感じる、痛む心		
7	心のはたらき4:知覚～分かる、動く、錯覚する、ものまねする		
8	心のはたらき5:感情～ポジティブな感情、笑うとは、怒るとは		
9	心のはたらき6:動機づけ～やる気の原理、インセンティブで動く心		
10	心のはたらき7:ストレス～不安とうつ、怒りと混乱への対処法		
11	心のはたらき8:社会心理～他者と生きる智恵		
12	心の個人差1:パーソナリティ～十人十色の性格・人格・品格		
13	心の個人差2:知性と感性～知能、社会的知能、創造性		
14	心の発達:細胞からヒト、人間、そして老い		
15	心の専門職:アセスメント、インターベンション、プリベンション		
授業形態/具体的な内容	<p>シラバス通りの順に心理学をスケッチしていきます。</p> <p>パワーポイントを使った講義が中心です。</p> <p>毎回マナバでクイズや課題を出すので聞き逃すことなく応答しましょう。</p> <p>リアルタイムの実験やデモも楽しみです。</p> <p>授業の終わりには次回授業の予告をしますから、準備して次回望むこと。</p>		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額

医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー	山田富美雄(監修・編著)	北大路書房	1900円+税
参考書	<p>心理学検定のための以下のテキストは用語の整理に役立ちます。</p> <p>日本心理学会諸学会連合心理学検定局・編「心理学検定基本キーワード」、実務教育出版、2016年版</p> <p>日本心理学会諸学会連合心理学検定局・編「心理学検定公式問題集」、実務教育出版、2016年版</p>		
成績評価の基準・方法	毎回の課題40%および試験60%で評価します。		
留意点	心とは何か、心のはたらきにはどのようなものがあり、どのように科学するのかを常に考えておいてください。心理科学部での学びの原点は心理学概論だともって、楽しく授業に参加してください。		
準備学習	シラバス通りの順で授業は行われますから、自分でノートを作ってしっかり準備しましょう。必修科目ですから、全員がしっかり同じ知識を身につけることが求められます。		
備考	分からないことがあったら、授業が終わってから、聞きに来てください。オフィスアワーも利用しましょう。	No.	

科目	心理学史	単位数	2
担当教員	相谷 登		
履修対象	心理科学科4年秋学期		
目的	現代の心理学について、その起源から変遷、更には現在の形となった経緯について、おおよそ説明できるようになる。		
達成目標	「知識・技能」 (1)心理学の起源について理解する。 (2)現代心理学の背景について理解する。 「思考力・判断力・表現力」 (1)現代心理学は、唐突に出来たのではないことを正しく理解する。 (2)各種の心理治療や心理療法の学問的背景を理解する。 「主体性・多様性・協働性」 (1)現代心理学の目指すものを正しく理解し、自らの行き方や職業志向に取り入れる。 (2)心理学の今後のあり方について考えてみる。		
授業計画			
1	心理学の起源について考えていく。		
2	哲学を基礎とした連合主義の誕生と心理学との関連性について知る。		
3	心理学の基礎をなした感覚・知覚研究の誕生を知る。		
4	精神物理学の誕生と心理学との関連性を知る。		
5	ヴントの登場と心理学の独立について理解する。		
6	ヴント登場後の心理学の世界の動向について知る。		
7	動物行動学の登場と比較心理学について理解する。		
8	個人に眼を向けた個人差研究について知る。		
9	フロイトの登場と精神分析学について理解する。		
10	ウエルトハイマーの登場とゲシュタルト心理学の誕生について理解する。		
11	ワトソンの登場と行動主義について知る。		
12	新行動主義から現代心理学への潮流について理解する。		
13	認知心理学について理解する。		
14	日本における心理学の歴史について知る。		
15	心理学の全体的な流れの理解とまとめ。		
授業形態／具体的な内容	①講義／②講義 全般を通して、講義形式で実施します。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
心理学史～現代心理学の生い立ち	大山正	サイエンス社	2,200円＋税金
参考書	「心理学のあゆみ」(著)大山正・岡本夏木・金城辰夫・高橋滯子・福島章 有斐閣新書		
成績評価の基準・方法	[基準] ①心理学の歴史の流れを理解し、②それぞれの現代心理学の影響性が理解できれば合格 [方法] 定期試験(65%)、講義内に課す課題レポート(20%)、毎時間行う課題(小テスト)を含む(15%)		
留意点	講義中の私語厳禁は言うまでもないが、大学の学びの集大成として能動的に考えて欲しい。		
準備学習	テキストは14章からなっており、各自で各回の授業前に該当する章を熟読し、レジュメとしてまとめておく事(2時間程度)。授業終了後は、心理学に関する学習の総決算として、あらゆる知識を統合しノート等にまとめる(約2時間)。		
備考	定期試験の結果について知りたい者に対しては、試験実施終了後約2週間後から素点のみを伝える。	No.	PY621033

科目	心理統計法 I	単位数	2
担当教員	宇恵 弘		
履修対象	心理科学科1年秋学期		
目的	心理学の研究で用いられる統計手法の基礎を学ぶ。こころの様子を知るために実験や調査、面接や観察などの方法によってデータが収集される。収集されたデータは数字に置き換え(数値化し)分析する。本講義で学ぶ心理統計学の知識は、データを分析するために欠かせないものである。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 (1)こころを数値で表現することに関心をもつ。 (2)マスメディアで目にする(耳にする)統計情報に関心をもつ。 「思考・判断」 (1)正しい計算ができているか、また、正しい統計知識の利用ができているか考えることができる。 「技能・表現」 (1)データの数量化、可視化ができる。 (2)統計量の計算ができる。 「知識・理解」 (1)推測統計について説明ができる。 (2)専門用語を用いて統計的仮説検定について説明ができる。		
授業計画			
1	なぜ心理学に統計が? :こころを数字におきかえる、記述統計と推測統計		
2	1つの変数の特徴を記述しよう1:データとは、尺度水準		
3	1つの変数の特徴を記述しよう2:データの図表化 2つの変数の特徴を記述しよう1:散布図とクロス集計表		
4	1つの変数の特徴を記述しよう3:代表値、散布度		
5	1つの変数の特徴を記述しよう4:標準化		
6	2つの変数の特徴を記述しよう2:共分散、相関係数、相関係数の性質		
7	標本から母集団を推測しよう1:母集団と標本、母集団分布を仮定する		
8	標本から母集団を推測しよう2:正規分布とその性質、標準正規分布、標準正規分布表		
9	標本から母集団を推測しよう3:標本分布、標準誤差、推定と推定量		
10	標本から母集団を推測しよう4:不偏性、不偏分散		
11	統計的仮説検定って何だろう1:統計的仮説検定の考え方、帰無仮説と対立仮説		
12	統計的仮説検定って何だろう2:有意水準、検定結果の報告		
13	統計的仮説検定って何だろう3:両側検定と片側検定、統計的検定における2種類の誤り		
14	統計的仮説検定って何だろう4:統計的仮説検定の手順		
15	春学期の振り返りとまとめ		
授業形態/具体的な内容	講義に加えて電卓を用いた計算の実習		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
よくわかる心理統計学	山田剛史・村井潤一郎	ミネルヴァ書房	2,800円+tax
参考書	心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、1990年、北大路書房 初めて学ぶ統計学、菅民郎・松山みぎわ、2003年、現代数学社		
成績評価の基準・方法	宿題、期末テスト、学習意欲による総合評価		
留意点	宿題(事前学習と事後学習)は毎時課すので必ず提出すること。特に、復習を必ず実施すること。		
準備学習	事前学習のための宿題を提出すること		
備考	宿題の提出はマナバを利用する	No.	PY321001

科目	心理統計法Ⅱ	単位数	2
担当教員	多田 美香里		
履修対象	心理科学科2年春学期		
目的	心理統計法Ⅰに続いて心理学の研究で用いる基本的な統計手法を学ぶ。本講義では、t検定、分散分析などを中心に扱う。解析手順のみではなくその理論的背景を理解しながら心理統計の基本的な考え方を学ぶことがねらいである。		
達成目標	「知識・技能」 (1)心理学で用いられる統計手法について概説できるようになる。 (2)論文の統計的記述を抵抗なく読むようになる。 「思考力・判断力・表現力」 (1)基本的な心理統計の内容を理解し、データを用いて実証的に考えるようになる。 (2)ニュースやインターネット等で得られる情報に対して科学的・客観的判断をもって理解する。 「主体性・多様性・協働性」 (1)心理学的問題に対して適合した統計的手法を自ら選択できる。		
授業計画			
1	心理学で用いられる統計手法について概説するとともに、データを用いた実証的な考えについて議論する。		
2	カイ2乗検定(1)／適合度の検定		
3	カイ2乗検定(2)／独立性の検定		
4	復習／カイ2乗検定を用いた研究事例		
5	t検定／独立な2群の平均値差に関するt検定(1)		
6	t検定／独立な2群の平均値差に関するt検定(2)		
7	t検定／対応のあるt検定		
8	復習／t検定を用いた研究事例		
9	分散分析／1要因分散分析(1)		
10	分散分析／1要因分散分析(2)		
11	復習／1要因分散分析を用いた研究事例		
12	分散分析／2要因分散分析(1)		
13	分散分析／2要因分散分析(2)		
14	分散分析／2要因分散分析(3)		
15	復習／2要因分散分析を用いた研究事例、まとめ／その他の統計の紹介、心理統計の特徴の復習		
授業形態／具体的な内容	講義に加えて電卓を用いた計算の演習や書き込み式の課題、コメントの記入を行う。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
よくわかる心理統計	山田剛史・村井潤一郎	ミネルヴァ書房	2800
参考書	森敏昭・吉田寿夫(1990)心理学のためのデータ解析テクニカルブック 北大路書房 田中敏・山際勇一郎(1992)ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 教育出版 山内光哉(2009)心理・教育のための統計法 サイエンス社		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準:心理学で用いる基本的な統計手法について理解し、概要を説明できること。 成績評価の方法:受講態度(積極性・コメントの妥当性)10点、課題(宿題、小テスト、小レポート、コメント)の達成度40点、学期末試験50点とする。		
留意点	毎回宿題がある。また、定期的に課題やコメントの提出を求める。授業中に電卓を用いた計算を行うことがある。		
準備学習	統計的記述を意識しながら心理学の論文を読んだり、参考書など統計に関する本を読むなどの準備をしておくことが望ましい。		
備考	毎回の宿題や課題については解答例や採点結果を示すため、各自の学習の参考にすること。	No.	PY621012

科目	心理学研究法 I	単位数	2
担当教員	亀島 信也		
履修対象	心理科学科1年春学期		
目的	実験と観察の方法、質的・量的データとその収集方法など、心理学研究に必要な方法を学習する。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 (1)心理学研究法の面白さから学習意欲が高まる。 (2)課題(練習問題)を定期的になすことから、基本的な学習習慣を獲得する。 「思考・判断」 (1)心理学文献などで取りあげられた研究方法について、生産的に批判できる。 「技能・表現」 (1)卒業論文作成に必須な、研究デザインの仕方について基礎的技能を持つ。 「知識・理解」 (1)心理学を研究する方法や手順などを正確に説明できる。 (2)実験や観察の方法、ならびに、質的研究や量的研究を正確に理解し比較ができる。		
授業計画			
1	講義予定と講義内容、成績評価、注意事項などを説明する。		
2	心理学は科学的方法を用いていることを説明する。		
3	心理学の調査研究方法の基礎と実験的研究を検討する。		
4	日常生活行動を検討する非実験的研究法を概観する。		
5	心理学研究で用いられる色々な研究デザインを比較検討する。		
6	標本抽出法を概説し実験のバイアスを抑える方法を示す。		
7	信頼性と妥当性の区別し、実験統制のエラーを検討する。		
8	実験や調査レポートでデータ提示する方法を詳説する。		
9	代表値・分布図・標準偏差と分布や基礎統計を学習する。		
10	心理学研究における4つの尺度レベルの違いを説明する。		
11	統計的推論や検定を行なうことについて解説する。		
12	量的研究で得られたデータ分析に適切な検定法を区別する。		
13	質的研究で得られたデータの扱い方について検討する。		
14	卒業論文でも使える研究レポートの書き方を説明する。		
15	心理学研究法のまとめとして今学期学習した内容を概観する。		
授業形態／具体的な内容			
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
心理学研究法入門 心理学エレメンタルズ	アン・サール著 宮本聡介訳 渡辺真由美訳	新曜社	2200円
参考書			
成績評価の基準・方法	単位認定に関しては、定期試験で判断する。定期試験については、担当教員の講義の理解を問う。講義中や補講期間中に小テストを行うこともあるので注意すること。		
留意点			
準備学習	開講初日に詳細なシラバスを配布するので、それに基づき週に1時間程度の準備学習を期待する。		
備考		No.	PY321002

科目	心理学研究法Ⅱ	単位数	2
担当教員	亀島 信也		
履修対象	心理科学科2年秋学期		
目的	さまざまな心理学実験、観察法、調査法と、その多様なデータ収集方法などの知識を修得する。		
達成目標	「知識・技能」 (1)心理学を研究するさまざまな方法を正確に説明できる。 (2)心理学論文執筆に必須な研究デザインを作成する基礎的技能を持つ。 「思考力・判断力・表現力」 (1)実験研究や観察研究などの基礎的手法が望ましいかを判断できる。 (2)実践研究や精神生理学研究などの応用手法が望ましいかを判断できる。 「主体性・多様性・協働性」 (1)さまざまな心理学研究法の面白さから主体的に学習する意欲が高まる。		
授業計画			
1	講義予定と講義内容、成績評価、注意事項などを説明する。		
2	心理学研究法を概観し、心理学研究法を分類する。		
3	実験法1 実験における統制を学習する。		
4	実験法2 実験の妥当性や仮説・構成概念を説明する。		
5	調査法1 心理調査と社会調査を区別する。		
6	調査法2 心理尺度の信頼性や妥当性を検討する。		
7	観察法1 観察研究の立場を理解する。		
8	観察法2 観察データの信頼性や妥当性を検討する。		
9	面接法1 面接法の研究計画を学習する。		
10	面接法2 面接データの質的分析を検討する。		
11	実践研究 代表的な実践研究について学習する。		
12	精神生理学的研究1 脳や神経系の概略と生理指標の種類を学習する。		
13	精神生理学的研究2 いろいろな研究の実際を概観する。		
14	心理学論文執筆法を再考する。		
15	心理学研究法Ⅱのまとめとして今学期学習した内容を復習する。		
授業形態／具体的な内容			
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
Progress & Application心理学研究法	村井潤一郎	サイエンス社	2200円
参考書			
成績評価の基準・方法	基準 さまざまな心理学を研究する方法や手順を説明できれば合格とする。 方法 単位認定に関しては、定期試験で判断する。 定期試験については、担当教員による講義の理解を問う(80%)。 講義中や補講期間中に小テストを行うこともあるので注意すること。 事前に講義ノートを手入手することや、質問などによるクラス参加度を評価する(20%)。		
留意点			
準備学習	開講初日に詳細なシラバスを配布するので、それに基づき週に2時間程度の準備学習を期待する。 各回の講義前に講義ノートを手入手し、シラバス掲載の教科書の部分に目をとっておくこと(1時間程度)。 各回の講義後に講義ノートを参考にして復習しておくこと(1時間程度)。		
備考		No.	PY621017

科目	心理アセスメント実習 I A	単位数	1
担当教員	津田 恭充、竹橋 洋毅		
履修対象	心理科学科3年春学期		
目的	心理アセスメントの中で質問紙法に焦点を当て、臨床の場面で用いられる技法を体験しながら修得する。		
達成目標	<p>「知識・技能」</p> <p>(1)さまざまなアセスメントの目的、内容、実施法、解釈法を総合的に理解する。</p> <p>(2)さまざまなアセスメントの具体的な実施手順と解釈法を修得する。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」</p> <p>(1)さまざまなアセスメントを体験することを通じて、検査者の役割や姿勢について考える。</p> <p>(2)アセスメントの個別の結果について解釈し、所見を書くことができる。</p> <p>「主体性・多様性・協働性」</p> <p>(1)アセスメントに積極的に取り組む姿勢を示す。</p> <p>(2)アセスメント実施に伴う倫理的責任について注意を払う。</p>		
授業計画			
1	オリエンテーション、心理アセスメントの目的と種類(竹橋)		
2	守秘義務、インフォームドコンセント、結果のフィードバック等の倫理(竹橋)		
3	ラポールの形成、インテーク面接、アセスメントの手順(竹橋)		
4	心理アセスメントにおける生物・心理・社会モデル(竹橋)		
5	性格検査:YG性格検査(矢田部ギルフォード性格検査)の概要(竹橋)		
6	性格検査:YG性格検査(矢田部ギルフォード性格検査)の実施と解釈(竹橋)		
7	事例紹介:臨床場面における心理アセスメントの実際(竹橋)		
8	性格検査:NEO-FFIの実施と解釈(津田)		
9	性格検査:エゴグラムと新版TEG IIの概要(津田)		
10	性格検査:エゴグラムと新版TEG IIの実施と解釈(津田)		
11	精神的健康の調査:CMI、STAI、BDI-IIの実施(津田)		
12	半構造化面接:M.I.N.Iの実施(津田)		
13	作業検査:内田・クレペリン検査の実施と解釈(津田)		
14	事例紹介:臨床場面における心理アセスメントの実際(津田)		
15	まとめと授業内試験(竹橋・津田)		
授業形態/具体的な内容			
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は使用しない。購入してもらう心理検査を使用する。			
参考書			
成績評価の基準・方法	<p>基準:授業で習った心理アセスメントの理論と方法を理解できていれば合格とする。</p> <p>方法:授業内試験と授業内での課題の総合点によって評価する。</p>		
留意点	体験型の授業であるため、心理検査用紙がないと授業を進めることができない。授業で使用する心理検査用紙を大学の指示にしたがって購入し、毎回持参すること。また、授業中に配布したプリントを整理して管理し、毎回持参すること。		
準備学習	シラバスに出てくるさまざまな心理アセスメントについて、簡単に予習しておくこと。また、実施法や解釈法について復習すること。		
備考		No.	

科目	心理アセスメント実習Ⅱ A	単位数	1
担当教員	櫻井 秀雄、栗村 昭子		
履修対象	心理科学科3年秋学期		
目的	臨床場面でも特に重視される個別式知能検査や投射法について、体験学習と講義の二本立てで学ぶ。		
達成目標	<p>「知識・技能」</p> <p>(1)個別式知能検査を部分的に施行することができる。</p> <p>(2)ロールシャッハテストのサイン化の意味を理解できるようになる。</p> <p>(3)集団式検査と個別式検査の違いを正しく理解する。</p> <p>(4)知能検査の種類と知能指数の考え方の違いについて説明できる。</p> <p>(5)投射法と質問紙法の違いを正しく理解する。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」</p> <p>(1)代表的な知能検査の用い方がわかるようになる。</p> <p>(2)投射法の基礎理論についてわかるようになる。</p> <p>(3)知能検査、投射法の限界や倫理についてわかるようになる。</p> <p>「主体性・多様性・協調性」</p> <p>(1)個別式検査を積極的に体験する。</p> <p>(2)自分自身で心理検査の解釈を試みる。</p>		
授業計画			
1	はじめに、アセスメントとは／授業のやり方、約束事、歴史的背景の紹介 (担当:栗村・櫻井)		
2	アセスメントの基礎知識(1)／投射法の基礎知識の獲得 (2~8回 担当:栗村)		
3	アセスメントの基礎知識(2)／ロールシャッハ・テストの基礎知識の獲得		
4	アセスメントの基礎知識(3)／ロールシャッハ・テストの基礎知識の獲得		
5	アセスメントの基礎知識(4)／描画テストの基礎知識の獲得		
6	アセスメント実習(1)／描画テストの施行法と解釈理論の獲得		
7	アセスメントの基礎知識(5)／SCTの基礎理論の獲得		
8	アセスメントの基礎知識(6)／SCTの基礎理論の獲得		
9	アセスメントの基礎知識(7)／知能検査の基礎知識の獲得 (9~14回 担当:櫻井)		
10	アセスメント実習(2)／知能検査の施行法の獲得 (WISC)		
11	アセスメント実習(3)／知能検査の施行法の獲得 (WISC)		
12	アセスメント実習(4)／知能検査の施行法の獲得 (K-ABC)		
13	アセスメント実習(5)／発達検査の施行法の獲得 (新版K式発達検査2001)		
14	アセスメントの基礎知識(8)／知能指数の基礎理論と算出方法の獲得・知能検査のまとめ		
15	倫理とまとめ／倫理についての知識の獲得と平常試験 (担当:栗村・櫻井)		
授業形態／具体的な内容	講義・演習		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
指定教科書なし			
参考書			
成績評価の基準・方法	<p>基準</p> <p>当該達成目標である「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」・「主体性・多様性・協調性」が達成できれば合格。</p> <p>方法</p> <p>授業態度、試験により、平常試験(80%)、授業での発言および個別式検査実習時の主体性など授業への貢献度(20%)として、それぞれ各担当者の評価を合計して総合評価とします。</p>		
留意点	臨床心理アセスメントⅠと同様、授業で使用する心理テスト用紙を持参して本講義に臨むこと。私語、大幅な遅刻は認めない。		
準備学習	準備学習 特に予習は必要としませんが、復習を確実に履行してください。		
備考		No.	PY422003

科目	心理学基礎実験実習Ⅰ(心A)	単位数	1
担当教員	多田 美香里、宇恵 弘、佐伯 恵里奈、林 美恵子		
履修対象	心理科学科2年春学期		
目的	心理学の基礎分野の題材をもとに簡単な実験を実施し、科学における実験の意義と方法についての理解を深めます。		
達成目標	「知識・技能」 (1)実験の目的に合わせて実験計画を立てることができる。 (2)実験データの収集および処理を適切に行うことができる。 (3)実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成することができる。 「思考力・判断力・表現力」 (1)実験を通して実証的な考え方をできるようになる。 (2)研究報告書の作成を通じて、科学的・客観的な表現ができる。 「主体性・多様性・協働性」 (1)実験結果を様々な視点から考察することができる。		
授業計画			
1	ガイダンスとレポート作成練習:受講の注意点の確認、レポートの書き方の概説、レポート作成練習用課題の実施		
2	触2点閾の測定(1):実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案します。		
3	触2点閾の測定(2):実験を実施し、データの収集・処理を行います。		
4	触2点閾の測定(3):データの分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
5	系列位置効果(1):実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案します。		
6	系列位置効果(2):実験を実施し、データの収集・処理を行います。		
7	系列位置効果(3):データの分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
8	知覚運動学習(1):実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案します。		
9	知覚運動学習(2):実験を実施し、データの収集・処理を行います。		
10	知覚運動学習(3):データの分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
11	データ解析演習(1):実験のデータを用いて解析手法について説明します。		
12	データ解析演習(2):心理統計のソフトウェアを用いて実際に解析します。		
13	データ解析演習(3):解析したデータの解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
14	復習課題(1):実験に関する復習課題を実施します。		
15	復習課題(2):添削したレポートを例に、改善点について確認します。		
授業形態/具体的な内容	4つのテーマを3週ずつ順に行う予定です。順番は班によって異なります。実習の報告書としてレポートを提出し、添削を受け、修正を繰り返しながら、科学論文を書く力を養います。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は指定せず、教員が用意したレジュメに基づいて授業をすすめます。			
参考書	心理学実験指導研究会(1985)実験とテスト=心理学の基礎 培風館 日本心理学会認定心理士資格認定委員会(2015)認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準:実験報告書(レポート)が作成でき、心理学の実験について理解すること。 成績評価の方法:各レポートは、別途配布する評価表の基準によって100点満点で評価します。4つのレポートの平均点を80%、受講態度(実験への貢献度、積極性等)を20%とします。		
留意点	授業中は、実験の実施に適した環境づくりを各自心がけてください。		
準備学習	実験心理学、心理学研究法に関する書籍を読んでおくこと。		
備考	レポート(実験の報告書)はすべてのテーマで提出し、期限までに提出されない場合は成績評価対象になりません。また、提出されたレポートはテーマ担当教員が採点・添削を行います。レポートは期限までに添削したレポートは返却しますので、各自で保管し、次のレポート作成に役立ててください。なお、合格点に達しないレポートには再提出を課します。期限までに再提出されない場合、そのテーマのレポートは0点になります。	No.	PY622001

科目	心理学基礎実験実習Ⅱ(心A)	単位数	1
担当教員	多田 美香里、佐伯 恵里奈、林 美恵子、山田 富美雄		
履修対象	心理科学科2年秋学期		
目的	心理学の実験を通して実証的な考え方を学ぶことがこの科目のねらいです。心理学基礎実験Ⅰで学んだことを活かして、さらに高度なデータ処理方法や考察を深めることにも挑戦しましょう。		
達成目標	<p>「知識・技能」</p> <p>(1)実験の目的に合わせて実験計画を立てることができる。</p> <p>(2)実験データの収集および処理を適切に行うことができる。</p> <p>(3)実験の結果について適切な解釈ができ、報告書を作成することができる。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」</p> <p>(1)実験を通して仮説検証について学び、実証的な考え方をできるようになる。</p> <p>(2)研究報告書の作成を通じて、科学的・客観的な表現ができる。</p> <p>「主体性・多様性・協働性」</p> <p>(1)実験結果を様々な視点から考察することができる。</p> <p>(2)心理学の研究例について改善点やより良い検証方法の提案ができる。</p>		
授業計画			
1	ガイダンスと復習課題:受講の注意点の確認、実験およびレポート作成に関する復習課題を行います。		
2	SD法によるイメージの測定と比較(1):実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案します。		
3	SD法によるイメージの測定と比較(2):実験を実施し、データの収集・処理を行います。		
4	SD法によるイメージの測定と比較(3):データの分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
5	ミュラー・リヤーの錯視(1):実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案します。		
6	ミュラー・リヤーの錯視(2):実験を実施し、データの収集・処理を行います。		
7	ミュラー・リヤーの錯視(3):データの分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
8	行動観察(1):実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案します。		
9	行動観察(2):実験を実施し、データの収集・処理を行います。		
10	行動観察(3):データの分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
11	生理データの測定(1):生理反応を実際に計測し、実験の意義と目的を解説し、実験計画を立案します。		
12	生理データの測定(2):生理反応をもちいた心理学実験を実施し、データの収集・処理を行います。		
13	生理データの測定(3):生理データの分析と解釈、報告書作成指導、個別質問受付を行います。		
14	実習のまとめ(1):これまでの実習で学んだことを確認するための課題を行います。		
15	実習のまとめ(2):これまでのレポートを元に、実験およびレポート作成に関する個別指導を行います。		
授業形態/具体的な内容	4つの実験を3週ずつ順に行う予定です。順番は班によって異なります。実習の報告書としてレポートを提出し、添削を受け、修正を繰り返しながら、科学論文を書く力を養います。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は使用せず、教員が用意した教材に基づいて授業をすすめます。			
参考書	心理学実験指導研究会(1985)実験とテスト=心理学の基礎 培風館 日本心理学会認定心理士資格認定委員会(2015)認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房		
成績評価の基準・方法	成績評価の基準:実験報告書(レポート)が作成でき、心理学の実験について理解すること。 成績評価の方法:各レポートは、別途配布する評価表の基準によって100点満点で評価します。4つのレポートの平均点を80%、受講態度(実験への貢献度、積極性等)を20%とします。		
留意点	授業中は、実験の実施に適した環境づくりを各自心がけてください。		
準備学習	心理学基礎実験Ⅰで習得したことを深めていきます。以前添削を受けたレポートや、実習の反省点などを振り返って復習しておいてください。また、理解を深めるために、実験心理学、心理学研究法に関する書籍を読んでおくことを推奨します。		
備考	レポート(実験の報告書)はすべてのテーマで提出し、期限までに提出されない場合は成績評価対象になりません。また、提出されたレポートはテーマ担当教員が採点・添削を行います。レポートは期限までに添削したレポートは返却しますので、各自で保管し、次のレポート作成に役立ててください。なお、合格点に達しないレポートには再提出を課します。期限までに再提出されない場合、そのテーマのレポートは0点になります。	No.	PY622002

科目	調査方法論	単位数	2
担当教員	宇恵 弘		
履修対象	心理科学科3年秋学期		
目的	質問項目を作成し、項目分析を行うことにより尺度構成の過程を体得することと、人格検査やSD法を実施し、データの解析の実習を行う中で調査の実際に触れることを目的とする。		
達成目標	「知識・技能」 (1) 得られたデータを集約し分析する方法について理解し、実践できる。 (2) データ分析の方法を理解し、実践できる。 「思考力・判断力・表現力」 (1) 得られたデータを集約することができる。 (2) 統計解析した結果を解釈することができる。 「主体性・多様性・協働性」 (1) 実験と調査から仲間と協力しデータを収集する。 (2) 仲間と相談しデータ分析をする。		
授業計画			
1	オリエンテーション		
2	質問紙法の基礎 1 / 尺度作成の概要説明、尺度項目の案出		
3	質問紙法の基礎 2 / データの収集と入力		
4	質問紙法の基礎 3 / 項目分析 1 (尺度得点の算出 (記述統計) と GP 分析 (t 検定) )		
5	質問紙法の基礎 4 / 項目分析 2 (IT 相関 (相関係数) )		
6	質問紙法の基礎 5 / レポート作成		
7	質問紙法 (人格検査) 1 / 質問紙調査の概要説明、調査用紙の作成		
8	質問紙法 (人格検査) 2 / データの収集と入力		
9	質問紙法 (人格検査) 3 / データの集約と解析 (記述統計、相関係数、t 検定)		
10	質問紙法 (人格検査) 4 / データの解析 (回帰分析、因子分析)		
11	質問紙法 (人格検査) 5 / レポートの作成		
12	SD 法 1 / SD 法の概要説明、調査用紙の作成		
13	SD 法 2 / データの収集と入力		
14	SD 法 3 / データの解析 (記述統計、分散分析)		
15	SD 法 4 / レポート作成		
授業形態	実習もしくは実技 / 実験、実習、実技		
教科書			
教科書名	著者	出版社	金額
特に使用しない			
参考書			
成績評価の基準・方法	基準 調査の方法論とデータの整理・分析を理解し、レポートとしてまとめることができれば合格。 方法 授業での学習意欲 40%、課題提出状況とレポート内容 60%		
留意点	課題の提出を頻繁に求めます		
準備学習	心理統計学の学習を終えている、あるいは本年度履修していることが望ましい。 Excel の操作に慣れていること。		
備考	各回の課題については次週フィードバックする。	No.	PY3222007

科目	心理学実践領域実習 I (心A)	単位数	1
担当教員	竹橋 洋毅、谷向 みつえ		
履修対象	心理科学科2年秋学期		
目的	心理面接やコミュニケーションスキルの基本となる知識や技法を学び、体験することを目的とする。		
達成目標	「知識・技能」 (1) 対人援助に関わる心理学的な技法や知識について、体験を通して身につける。 (2) 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける。 「思考力・判断力・表現力」 (1) 心の問題に対して、心理学の見解や理論に基づき、援助の方向性を考える力をつける。 「主体性・多様性・協働性」 (1) 心の問題に対する援助について多様性、協働性の観点から理解できる。		
授業計画			
1	オリエンテーション／授業概要および進め方についての説明		
2	感情と行動のブレインストーミング (担当: 谷向)		
3	臨床心理学的面接の基礎／かかわり行動 (担当: 谷向)		
4	臨床心理学的面接の基礎／質問技法 (担当: 谷向)		
5	臨床心理学的面接の基礎／ 言いかえ・要約技法 (担当: 谷向)		
6	インテーク面接とは (担当: 谷向)		
7	ロールプレイ／情報の収集 (担当: 谷向)		
8	ロールプレイ／見立てる (担当: 谷向)		
9	対人援助のための傾聴(担当: 竹橋)		
10	他者の信念に耳を傾ける(担当: 竹橋)		
11	考え方の癖や思い込みに気づく(担当: 竹橋)		
12	学習方略について耳を傾ける(担当: 竹橋)		
13	良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとは(担当: 竹橋)		
14	説得的なコミュニケーション技法(担当: 竹橋)		
15	ロールプレイ／行動変容にむけたコミュニケーション(担当: 竹橋)		
授業形態／具体的な内容	実習形式(ワーク、ロールプレイ、ディスカッション)を中心に行う。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
特に指定しない。			
参考書	各授業の中で、適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	基準 心理面接において基本的な知識や技法、特に傾聴について理解するとともに、それらを実践しようとする態度や意欲を身につけることができれば合格。 方法 学習意欲、受講態度、提出物などにより総合的に評価する。		
留意点	実習中心であるため、無断欠席、遅刻は厳禁。また、受講生には、ロールプレイやグループでの話し合いなど、積極的な参加が求められる。		
準備学習	日常生活の中で感じる事、考える事に意識を向けてみましょう。また、普段から新聞やテレビで報道されている社会的問題に意識を向けて、どのような援助・介入が可能かを考えるようにしましょう。		
備考	課題等へのフィードバックは授業中に適宜行う。	No.	PY622003

科目	心理学実践領域実習Ⅱ A	単位数	1
担当教員	津田 恭充、櫻井 秀雄		
履修対象	心理科学科3年春学期		
目的	カウンセリングの基本的技法や発達障害や不登校事例を踏まえ、その臨床心理学的支援技法を習得する。		
達成目標	<p>「知識・技能」</p> <p>(1)いくつかの代表的なカウンセリングや心理療法の理論を理解できる。</p> <p>(2)様々な発達障害や不登校児への発達臨床心理学的支援技法を理解できる。</p> <p>(3)その技法を事例を通じて活用できる。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」</p> <p>(1)対人援助の実践方法について自ら考え判断できる。</p> <p>(2)発達や知的能力のアセスメント結果から適切な指導・助言を判断できる。</p> <p>(3)その発達特性に応じた環境調整等の決定をするプロセスを考えられる。</p> <p>(4)発達障害や不登校児への臨床心理学的支援技法について、総合的に思考・判断できる。</p> <p>「主体性・多様性・協働性」</p> <p>(1)対人援助に関心を持ち自ら課題に取り組める。</p> <p>(2)グループでの実習やロールプレイなどで仲間と協力できる。</p>		
授業計画			
1	はじめに/授業のオリエンテーション		
2	発達障害(自閉スペクトラム症)および不登校に対する臨床技法の歴史の変遷(櫻井)		
3	発達障害(自閉スペクトラム症)の二次障害としての不登校に対する行動療法と感覚統合療法(櫻井)		
4	発達障害(自閉スペクトラム症)の二次障害としての不登校に対する太田のステージによる認知発達治療とTEACCHプログラム(櫻井)		
5	発達障害(自閉スペクトラム症)の二次障害としての不登校に対する補助代替コミュニケーション(AAC)とPECS/ソーシャル・ストーリーズと対人関係発達指導法(RDI)(櫻井)		
6	発達障害(自閉スペクトラム症)の二次障害としての不登校に対する精神力動的介入(遊戯療法の可能性について)(櫻井)		
7	学内現場実習:発達障害(自閉スペクトラム症)児者への臨床心理学的支援活動および事前準備に参加して学ぶ(櫻井)		
8	カンファレンス 学内現場実習の振り返り(櫻井)		
9	クライアント中心療法に基づく傾聴の体験(津田)		
10	クライアント中心療法に基づく傾聴の体験(津田)		
11	カウンセリングにおける非言語的要素の影響を調べる実験(津田)		
12	活動記録表を用いたセルフモニタリングと行動活性化(津田)		
13	活動記録表を用いたセルフモニタリングと行動活性化(津田)		
14	行動実験による苦手なことへの挑戦(津田)		
15	行動実験による苦手なことへの挑戦(津田)		
授業形態/具体的な内容	講義、学内実習(発達障害(自閉スペクトラム症)児者への臨床心理学的支援活動への参加など)、演習形式		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
プリント配布等。			
参考書	適宜配布するプリントに加え、下記の文献を参考図書とする。 福祉現場における臨床心理学の展開～医学モデルとライフモデルの統合を目指して/袴田俊一・三田英二・櫻井秀雄・西村武・寶田玲子(久美出版)		
成績評価の基準・方法	基準:授業内のロールプレイ、レポート提出、学内実習への参加、実習記録の提出がすべてなされていれば合格とし、内容に応じてさらに加点する。 方法:津田は授業内のロールプレイとレポート提出、櫻井は学内実習(6～7月の日曜日(3～4回程度)に開催される「発達障害(自閉スペクトラム症)児者への臨床心理学的支援活動」)に関するレポートと実習態度・実習記録から評価する。学内実習は指定された日時の中から必ず1回を選び出席すること。		
留意点	学内実習においては、直接、発達障害(自閉スペクトラム症)児者に接するので、守秘義務はもちろんのこと、自他共に怪我のないようピアス等は外すなど自己管理してください。		
準備学習	毎回の講義についてのノートおよび配付する資料は大切に保管し、必ず、復習して、次回に臨むこと。		
備考	講義テーマ等については、変更や入れ替えの可能性がある。	No.	PY622001